

## 学習意欲を高めるための校内体制作り

－わかる・できる・楽しい学習体験の追求－

所属校：杉並区立荻窪小学校

氏名：山根 まどか

派遣先：早稲田大学教職大学院

キーワード：学習意欲・校内体制・指導のポイント・家庭学習の手引き

### I 研究の目的

#### 1. 問題の所在

学習意欲の低下が問題となっている昨今、国立教育政策研究所が行った「学習意欲に関する調査研究」（平成12～13年度）において、児童・生徒が意欲をもって学習に取り組むようになった児童・生徒への一言や具体的な学習体験などの事例を収集した結果、小学校では「授業がよく分かるとき」「先生にほめられるとき」「授業がおもしろいとき」がベスト3であった。

このことから、学習意欲を向上させるためには、わかりやすく楽しい授業を行い、できたと実感できるように学校や家庭で習熟を行うことによって学習が楽しくなり、学習意欲へとつながっていくと考えられる。

また、授業が楽しいと感じるには、居心地のよい学習集団であることも大切な要素である。互いの存在を認め合い、意見を尊重し合える人間関係の中で学習をすることで、その集団で学習することが楽しくなり、意欲的に学習に取り組もうとする心も芽生えていくのである。

一方、団塊の世代の大量退職時代を迎え、新規採用の教員が増え続けている中、経験の少ない教員は、意欲や熱意があっても、実践的な指導法や柔軟な対応の仕方が分からないため、思ったように授業を進めたり学級をまとめたりすることができずに苦勞しているという現状がある。

#### 2. 研究の目的

それらを踏まえて、本研究では、

- (1) 児童の実態を調査・分析し、学習意欲を高めるために必要なことと、解決に向けた取り組み案を考えること
  - (2) 授業観察を通して、児童が「わかる」「楽しい」と感じる授業や学び合える学習集団作りのポイントを整理し、具体的な指導事例をまとめること
  - (3) 家庭との連携を図りながら、家庭での学習習慣を身に付けるための方策を検討すること
- を目的とした。

### II 研究の方法

#### 1. 研究の対象 都内公立小学校

#### 2. 調査の時期 平成21年6～10月

#### 3. 研究方法

- (1) 「勉強・生活に関するアンケート」実施・分析  
学校や家庭における学習や生活への意欲や実態について調査するため、全国学力調査を参考にアンケートを作成し、4・5・6年生児童を対象に行った。
- (2) 授業観察・分析  
全学級の授業を観察して分析した。
- (3) 家庭学習についてのアンケート及び聞き取り調査  
全学年の学級担任に、家庭学習の内容や取り組み方、授業との関連のさせ方についてのアンケートをとり、その後聞き取り調査を行った。

### III 研究の結果

#### 1. 読書の習慣付けを図るための校内体制

アンケートより、国語を苦手と感じている児童が多いことが分かった。その原因の一つとして、活字に触れる機会が少ないことが分かった。そこで、読書の関心を高めるために、以下のような校内全体の取り組みを考えた。

- (1) 全校で曜日をそろえて朝学習の時間に読書をするようカリキュラム編成を行う。
- (2) 読書の習慣付けを家庭と連携して図るため、家読（うちどく・家族で読書に取り組むこと）を呼びかける。
- (3) 読書記録カードを作り、読書をした冊数や分量を実感できるようにする。
- (4) 保護者や地域にボランティアを募り、朝学習や休み時間に読み聞かせをしてもらうよう働きかける。

#### 2. 「指導のポイント集」を作成して活用

教員同士で授業を見せ合い、指導法について意見交流をする時間がなかなか取れない。そこで、授業観察を基に、「わかる」「楽しい」と感じる授業や学び合える学習集団づくりにはどのようなポイントがあるのかということ以下にまとめた。

##### (1) 意欲的に学習に取り組ませるためのポイント

###### ① 何を

学習のめあてや活動内容や方法

## ② いつ

- ア 学習内容や段階によって短時間から日常化まで期間を設定するなど、明確にする
- イ タイミングを見計らう

## ③ どのように

- ア マルチ能力を引き出し、子どもの特性に合わせた提示方法を行う
- イ 褒めることにより価値付ける・行為を認める・自信をもたせる
- ウ 習得（既習の学習体験と関連付け、基礎的・基本的な知識や技能を習得する）・活用（習得した知識や技能を活用させる）の指導の流れで授業を行う

## (2) わかりやすい授業をするためのポイント

### ① 何を

範囲・条件・手順

### ② いつ

- ア 活動を通して気付かせるとき
- イ 活動を方向付けるとき
- ウ 考え方の正誤を示すとき

### ③ どのように

- ア 具体的・段階を追って示す
- イ 多様な考えを引き出し、認め、取り入れさせる
- ウ 授業の流れが分かる板書を工夫する
- エ 考えて書かせるノート指導を行う
- オ 指導が積み重なっていくワークシート作りをする

## (3) 学び合える学習集団作りのポイント

### ① 学習規律を確立する

- ア 学習規律を守ることができる環境作りをする
- イ 学習規律を守ることの価値付けをする
- ウ 学習のルール作りをする
- エ ルールを徹底する

### ② 児童相互をつなげる

- ア 交流しやすい学習形態を工夫する
- イ 交流する機会を意図的に設定する
- ウ 互いの思いを受けとめる

### ③ 一人一人を主役にする

- ア 一人一人の状態を適切に把握する
  - イ 一人で課題と向き合う時間を確保する
  - ウ 個々が活躍できる機会を設定する
- これらのポイントにおける具体的な指導事例を示した「指導のポイント集」を作成した。共通の視点をもって各自が授業についてふりかえると共に、相互に研鑽することができるようにした。

## 3. 「家庭学習の手引き」を作成して活用

家庭学習の内容や方法、課題の出し方や授業への結び付け方は学年によってまちまちであった。また、担任が変わる度に家庭学習の内容や方法が変わるため、全ての家庭が理解して浸透するまでに時間がかかるという悩みを抱えていることも分かった。小学校6年間通した中で学習を積み重ねていくため、どの教師が担任しても、同じように児童の学力を育成できるように、校内全体で家庭学習の内容や方法、授業への結び付け方を検討し、方向付ける必要があると考えた。

そこで、保護者に学校での取り組みを説明し、家庭学習の内容や方法についての共通理解を図ると共に、児童の意識付けや保護者の協力を得るために、「家庭学習の手引き」を作成した。学年毎に児童自身が読めるように児童用を作成すると共に、保護者説明用のプリントも併せて作成した。

### ① 児童用の内容

ねらい、取り組むめやすの時間、環境の整備、学習内容や方法

### ① 保護者用の内容

ねらい、保護者の役割、家庭学習のさせ方

## IV 考察

学習意欲を高めるための校内体制作りの研究を行ったが、学校によって実態はそれぞれ違う。しかし、今回のように、まず実態を調査・分析して課題を把握し、学校としてできることや必要なことを考え、教員全体で共通理解を図り、一丸となって取り組んでいくように計画を立てることが大切である。

また、取り組む内容を決めるにあたっては、教員集団の特徴や得意なことを活かすと共に、家庭や地域の人材を活かして、協力を呼びかけることも大切である。文頭で紹介している研究結果からも、多くの児童は、授業において「分かってほしい」「ワクワクドキドキして受けてほしい」「ほめられたい」という素朴な欲求をもっている。この欲求を満たすことができるように、学校・家庭・地域それぞれができることを真剣に考え、互いに連携し、協力しながら全力で取り組むことにより、少しずつ課題が解決の方向に向かい、児童の学習意欲は向上していくのである。

その積みかさねが、やがて児童の学力向上や、「力のある学校」(志水, 2009)への進化と発展していくと考える。

## 引用文献

志水宏吉編(2009)「力のある学校」の探究  
大阪大学出版